

## 1. 学歴

---

1996年3月 慶應義塾大学経済学部卒業  
1998年3月 筑波大学大学院博士課程社会工学研究科入学  
2003年3月 同 修了 (博士(計量ファイナンス)取得)

## 2. 職歴・研究歴

---

1996年4月 国際投信投資顧問(株) (1998年3月まで)  
2003年4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師

## 3. 学内教育活動

---

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

基礎計量経済学, 数量経済分析 A, 金融工学概論

#### (b) 大学院

計量ファイナンス A

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

基礎計量経済学は, 計量経済学の入門科目であるため, 学生の興味を喚起するような講義を心がける。習得した基礎理論を, 統計ソフト (TSP など) を用いて実践できるようになってほしい。数量経済分析 A は, 上級計量経済学<sup>1</sup> (大学院コア科目) の準備科目であり, そこで標準的に扱われる線形代数や確率・統計の導入を担う。筋力トレーニング的性格を帯びており, 反復練習により講義内容に慣れてほしい。金融工学概論は, ポートフォリオ理論や無裁定価格論について, 経済学部<sup>2</sup>の学生に適合した形で講義を進める。

計量ファイナンス A では, 最新的话题をいくつか紹介し, 修士論文のネタを提供できるような講義を目指す。前提となる基礎理論については, 前半部分でしっかり講義する。

## 4. 主な研究テーマ

---

ファイナンス

- (1) 金利や金融派生商品価格のモデル化
- (2) 金融時系列データの解析及びモデルの推定

金利やオプションのデータは, 通常パネル状になっている。データの時系列・横断面双方の性質を統合的に捉えられるモデルを提案する。また, そのようなモデルを通じて, データに内在する様々な性質 (ボラティリティ等の潜在変数の挙動, 投資家の金利見通しやリスク選好等) を明らかにしていきたい。

## 5. 研究活動

---

### A. 業績

## (b) 論文(査読つき論文には\*)

- \* "Approximation of Nonlinear Term Structure Models," *Journal of Derivatives*, Vol. 8 No. 3, 2001 (with I. Shoji), pp.44-51.
- \* "Modeling the Term Structure of Interest Rates with General Short-Rate Models," *Finance and Stochastics*, Vol. 7, No. 3, 2003 (with I. Shoji), pp.323-335.
- "Nonlinear Term Structure Models of Interest Rates," Ph.D. Thesis submitted to University of Tsukuba, 2003, pp.168.
- "Analytical Valuation of Swap Yield Curves," Discussion Paper 1021, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, 2003 (with I. Shoji).
- \* "On Accuracy of Local Linear Approximation for the Term Structure of Interest Rates," *Quantitative Finance*, Vol. 4 No. 2, 2004 (with I. Shoji), pp.151-157.
- "A Simple Measure for Assessing Costs behind Benefits from Using Proxy Yields and Tractable Yield Models," submitted, 2004.
- "Modeling the Term Structure of Interest Rates with General Diffusion Processes: A Moment Approximation Approach," Discussion Paper 2006-5, Graduate School of Economics, Hitotsubashi University, 2006 (with I. Shoji).
- "Is Nonlinear Drift Implied by the Short-End of the Term Structure?," Discussion Paper 2006-8, Graduate School of Economics, Hitotsubashi University, 2006. (accepted for publication in Review of Financial Studies)

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表

- "非線形金利期間構造を記述した近似モデルの精度に関して," 日本統計学会, 明星大学, 2002年9月.
- "Analytical Valuation of Swap Yield Curves," 日本経済学会, 広島大学, 2002年10月.
- "短期金利の代理変数について, その妥当性を調べる簡便な方法の提案," 理論応用力学講演会, 日本学術会議, 2004年1月.
- "A Simple Measure for the Proxy Problem of the Short-Rate," International Symposium on Financial Time Series, 東京都立大学, 2004年2月.
- "Nonlinear Drift Implicit in the Short-End of the Term Structure," Hitotsubashi Conference on Economic Statistics, 一橋大学, 2004年12月.
- "Interest Rate Volatility Implicit in Term Structure Data," 横浜国立大学・南山大学共同ファイナンス・ワークショップ, 横浜国立大学, 2006年2月.
- "Interest Rate Volatility Implicit in Term Structure Data," Fourth World Congress of the Bachelier Finance Society, 東京・学術総合センター, 2006年8月.

### (b) 国内研究プロジェクト

- 「金利プロセスの推定」文部科学省科学研究費補助金若手研究(B), 2006年度-, 研究代表者.

## C. 受賞

- 筑波大学学長表彰 (在学中顕著な研究業績を挙げた博士課程の学生に対して), 2003年3月.

## 7. 学外活動

---

### (a) 参加学会および学術活動

日本統計学会

日本経済学会

日本金融証券計量工学学会